

令和4年度 第2回 上島小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年6月24日（金） 13時00分から15時00分
- 2 開催場所 上島小学校 会議室
- 3 出席委員 黒柳 寿一、山崎 賜、青木 榮治、大橋 薫、小板 喜世子、山本 暢子、池村 俊典、森園 大介、安川彰一、横山 美保
- 4 欠席委員 なし
- 5 学校職員 山本 千興（校長）、佐山 淳一（教頭）、山内 剛治（主幹教諭）、高橋 靖人（CS担当）
- 6 オブザーバー 浜松市曳馬協働センターコミュニティ担当 大平智史
- 7 教育委員会 教育総務課 グループ長 清水 悠
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項
 - (1) 会長あいさつ
 - (2) 校長あいさつ
 - (3) 井上尚子先生の講話（DVD視聴）「学校運営協議会の円滑な進め方について」
 - (4) 議長の選出 ※出席した委員の中から互選
 - (5) 熟議内容
 - ① 「地域の力をどう教育に生かすか」について
 - ② 「学校運営協議会自己評価＜評価項目2＞の記入
- 10 会議録 作成者 CSディレクター 清水 遥
- 11 会議記録

○ 司会の高橋から、委員総数10人の内10人の出席があり、過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

(1) 議長の選出について

○ 司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、山崎委員から黒柳委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

(2) 会議内容について

① 「地域の力をどう教育に生かすか」について

○自治会役員OBとシニアクラブの活動をしていて、その中で1年生の生活科の授業で昔の遊びを一緒に楽しむということをコロナが流行る3年前までやっていた。シニアクラブのメンバー30人程度で授業の一環として参加者にもその旨を伝えやっていた。地域の高齢者との触れ合いを大切にもできる。その他、地域での活動で12月の初めに地域での防災訓練（放水や救急の訓練）があり、中学生や高校生が参加し、参加証に自治会長からハンコをもらうように学校から指導されているが、小学生はそういうことはなく保護者と参加している。できるだけ参加をしてもらえれば子供たちを対象としてその場で防災の話や訓練ができる。米寿を過ぎた方で戦争体験を語ることのできる人がいる。また、その方の一族は400年前から上島に居住しており、資料もあるとのことなので、

上島の歴史についても語る事ができる。このような人材の活用を考えてもいいのではないか。(山崎委員)

○自治会の防災訓練は見てもらうだけでも十分かなとは思。消火器の操作や放水訓練に触れる、救急の訓練など中学・高校生は先生がいないと何をやらしてもらえばいいかわからなくて苦労することもある。小学生は保護者と来て、見てもらえれば普段出来ないことができる(黒柳議長)

○子供会で防災訓練の参加があり、小学生が来て消火器訓練をやったりするところもある。僕自身が消防団に入っており、中学生や小学生の指導を自治会を通して消防団に声をかけていただければ中学生ならこういうことができるよねと考えながらできる。(森園委員)

○幼稚園から発信する便りには地域の防災訓練に参加して下さいと出ている。(山本委員)
→学校でも呼びかけをしており、教育委員会のほうからも参加の求めがある。中学生や高校生のように参加カードはないが、翌日には参加した子の確認を取っている。しかし、中学生や高校生のように参加者が多くないのが現状である。(教頭)

→中高生などは基本的には、災害時に地域を支える一員になって欲しいということで参加をさせている。小学生もその姿を見ながら将来自分たちもああゆう風になっていくんだというようになっていければと願う。(校長)

○自主防や30年以上続いている浜松まつり、もっと前から続いている遠州大念仏などそういうものを地域の大人が伝えていき、そして地域の行事に参加していく中で大人の活動を知ることができる。自分もできるんだと関わっていく中で地域の変遷を知ることができる。(青木委員)

○大前提の学校経営目標の「温かい学校風土の醸成と発達支援教育を核とした学校経営の推進」の発達支援教育を核としたというのは具体的で分かりやすいのですが、温かい学校風土の醸成というのは校長先生からご説明があったように子供同士、地域や保護者と学校とのかかわりなど、子供の人と人とのかかわりといったところを温かい学校風土ととらえているのか?(森園委員)

→この学校風土というのは子供たち。それを支えてくれているのが保護者や地域の方だと思います。何故これを掲げているのかというと、今学校はいろんな問題の対応に苦慮しています。本来、教員がやる仕事は授業だと思う。授業を充実させるために、放課後に教材研究をしたり授業の準備をしたりすることに大きなエネルギーと時間を注ぐべき。しかし、時代の流れの中で皆さんご承知の通り発達に課題を抱えた発達障害の子供たち、家庭に恵まれず色んな支援を必要としている子供たちや、子供たち同士のかかわりが苦手であまり友達同士付き合えない子が増えている。対面でかかわることが今少なくなっていて、離れている場所でもオンラインでゲームができることが友達とのかかわりみたいになっている子がいて、そのような社会情勢の中で先生方が対応しなければいけないことが本当に山のように増えている。最初に言いましたように本来授業のために準備をする時間にかけたところが、放課後に保護者の対応や、子供の問題で外部の関係機関とケース会議をするために時間を費やしている。本来やるべきことが出来なくなっているが働き方改革で早く帰ることも意識しなければならない。そういった時にどうやった

ら、問題が起きないで、先生方が本来やるべきことに力を注げるのかということを考えて時に、やはり集団作りを大事にしようということなのではないかなど。子供たちが学校にやってきて温かい環境の中で生活をしていけばトラブルも少なくなる。そういう風に満足した学校生活が送れば、家に帰って保護者に「今日学校楽しかったよ。」と言う。満足した生活が送れているのだと思えば、トラブルの発生が少なくなり、放課後の時間に授業の準備に専念ができる。(校長)

○曳馬小学校で支援コーディネーターの活動として、書道の授業をサポートしている。中に入って活動することによって実際に何が必要なのかわかる。授業は先生がやるもので僕の立場は支援・補助である。片付けが出来ない生徒の手伝いをするので次からはできるようになる。教えるのではなく手伝う。いきなりだと大変なので、授業の中に入って児童と楽しんでやってみることが大事である。まず自分が実体験をし、あまり先走らず、一步一步やっていくことが必要である。(池村委員)

○このような例は今まで他にあったのか？(黒柳委員)

→今までは市の出前講座等で講師を依頼していた。しかし、身近な地域に人材がいれば、お願いしたい。書道や家庭科への支援が欲しい。特に、「玉止め」などを補助していただくとありがたい。戦争体験や昔の話など、実際の生の話を聞くことができるのは、貴重だと思う。(主幹)

○教職員は転勤がある。それとともに、地域人材等の情報も薄くなってしまいうこともあるが、それを補うのが学校支援コーディネーターである。そのため、地域にある協働センターで人材バンクを作成して保管していただくとよいのではないか。そうすれば、上島小でも、曳馬小でも、人材活用が促進されるのではないか。個人情報管理もできるし、保管もしていただける。(池村委員)

○個人情報の扱いとして、協働センターが保管するのがよいか、確認が必要では。(森園委員)

→確認してみる。(曳馬協働センター)

○新しい方の募集の仕方は、どうやっているのか。(山本委員)

○コーディネーターが知り合いに声をかけている。そこから、輪を広げている。(池村委員)

○学校によっては、便りを配布している。しかし、どんな方が参加してくるのか、不特定なのが心配。それならば、協働センターを通して、人材を探すのがよいのではないか。(森園委員)

○それだからこそ、委員の知り合いを探すのも、必要ではないか。(池村委員)

○曳馬協働センターでも、すでに6月5日にチラシを配布した。すでに、5名ほど参加してくれている。協働センターでは、どんな活動で、どんな支援が必要かを説明している。その上で、学校からの支援の求めがあれば、コーディネーターを通して、声をかけると説明済みである。(曳馬協働センター)

○ちなみにどういった分野で？(池村委員)

○裁縫、ミシンが2人。絵画1人。花1人。居合道を通して、精神的な部分を伝える1人。チラシによって反響もあり、地域に学校の活動を伝えることもできた。今後も、利用団体を中心に声をかけていきたいと考えている。(曳馬協働センター)

- 自治会にも絵手紙などいくつかサークルがあるので、そういった方への声掛けも必要である。(黒柳委員)
- 他校の情報だと、学校のニーズと講師の気持ちのずれが生じる場合がある。そこも心配である。(森園委員)
- そういうことを避けるために、事前の打ち合わせが大切である。書道でも、子供たちを支援するという立場で参加していただきハードルが低くだれでもできる内容。他にも、校外学習についてサポートを行っていただけるだけでも、ありがたい。(校長)
- 協働センターも募集をかけつつ、学校でもお母さんボランティア等として、学校は学校で募集してもよいのではないかと。(山本委員)
- 事前に調整が必要になると思う。人材はいくらあってもよい。(校長)
- 地域で募集することも必要である。学校は、学校で募集をかけることも必要ではないか。多重化していくことも大事ではないか。親子のかかわりができる。親子づくりにもなる。(大橋委員)
- 校外学習の付き添いぐらいなら、保護者でできるのではないかと。(森園委員)
- 今まではやっていたが、コロナの影響で出来なくなってしまった。(教頭)
- 今後は、コーディネーターと学校が中心となって、1つでも2つでも検討していただくとありがたい。(黒柳委員)
- 戦争体験の話は山崎委員と進めたい。校外学習の引率、書道や学習ボランティアを保護者に募集をかけたい。(森園委員)

<学校運営協議会 自己評価への記入> ※時間のため、記入内容の紹介は割愛。

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

②曳馬協働センター 大平様、教育総務課 清水様より

○協働センターとして、地域の方に声をかけて、さらに人材を集めていきたい。チラシを配ることで、まずは、学校が支援を必要としていることを知ってほしいと思っている。その上で、地域が協力してくれればと考えている。今後も、協力していきたい。(曳馬協働センター 大平)

○非常に有意義な意見が多数出されていた。研修会にて伝えているのは、学校のペースを進めてほしいと伝えている。まずは、学校の現状を知ってほしいと考えている。本日は、そのような建設的な熟議がなされていた。協働センターだよりで募集された人材も有効に活用できるとよいと思う。(教育総務課 清水)

☆その他のご意見

その他報告事項等

佐山教頭から、次回第3回会議は、令和4年10月20日(木)に開催する連絡があっ

た。